

* おわりに

おわりのひとは、お詫びのひとになります。

「歴史案内」などと意気まいてみたものの、まったくの不案内でしかなかったことをお詫びするばかりです。

とくに、「十一面さん」「お城山」「平城」などにかかわっての、その時代の「小野寺家の領主」には手を焼いてしまったものです。景道とみるか、輝道とみるかなど、不勉強がたたって、正確さを欠く不始末はごめんしてください（むい案は新し『櫻守史』へ選編／磨・亮・世がちます）。

この「歴史散歩」は、ぶらぶら歩きはじめ書き始めてから、およそ十年以上はたちます。書きためたものをワープロに打ち、それを読み直しては書き直し、書き直して、やっとまとめにかかりました〇八年七月、とつぜん脳梗塞がもとで右顔面神経マヒにとりつかれ（このあたりはうかすられてしま、早い入院・治療のおかげで）なんとかもとのからだにもどったものの、それからの仕事のスロー・ペースには参ったものです。ついつい年を越しての仕上がりになってしまった次第です。

たくさんの方々のご援助をいただき、貴重な資料・また写真などお借りできたことなど、ふかくお礼申しあげます。ありがとうございます。

おわりのおわりになるのですが、原稿用紙がわりのワープロは二台目。一台目はとくにダメで、今のは小坂良太郎氏から、それこそ十年以上も借りっぱなしです。調子がよすぎるのはワープロだけでなく、借り手もおなじで、こんど返すときは両手についてお詫びと、お礼をと考えています。厚顔無恥とどやされそうです。持病の糖尿病もあまりよくなく、目の力も弱くなってしまい、助けられたワープロともお別れです。ほんとうに助けられたこと、そのお礼と、お詫びのひとことを申し添えて、ほんとうの終わりにします。

〇九年二月

小川 笹太郎